

探究活動成果発表会

令和元年5月22日(水)、本校記念講堂を会場に探究活動成果発表会が開催された。この発表会は全国SSH生徒研究発表会への出場権をかけた予選にもなっており、3月のSSH校内生徒研究発表会にて選出された11グループが口頭発表を行った。それぞれのグループはパワーポイントなどを用いて趣向を凝らし発表した。また、審査とは別に、東北大学「探求型科学者の卵」最優秀班による口頭発表も行われた。

その結果、最優秀賞には、理数科化学班の「沸点上昇から見た濃塩化ナトリウム水溶液中の状態の解明」が選出され、全国SSH生徒研究発表会(8月7・8日 神戸国際展示場)への出場権を獲得した。



「沸点上昇から見た濃塩化ナトリウム水溶液中の状態の解明」
三年 理数科 女子

5月22日に行われた探究活動成果発表会において最優秀賞をいただくことができ、すぐくうれしいです。二年生の最初にメンバー4人が集まったとき、誰が1年後に全国大会に出られることを想像していたでしょうか。初めは何もわからない中で先輩に実験方法を教わり、先生と相談して方針を固めてきました。特に実験後の考察が難しく、議論を通して、それぞれが論理的に考え乗り越えていきました。山形大学の神戸士郎教授にも多大なるご協力をいただき、さらに核磁気共鳴装置という高校にはない実験装置を使わせていただきました。

私たちは周りの方々の支えがあつての「沸点上昇班」です。先生方や先輩方をはじめ、「発表良かったよ!」と言ってくれた全ての同級生、先輩にこの場を借りて感謝を伝えたいです。全国大会という大きな舞台ではさらに厳しい質問や追及も予想されると思いますが、興讓館の名に恥じないハイレベルな発表ができたらと思います。悔いのないよう頑張ります。

イノベーター育成塾修了式・入塾式

6月4日(火)イノベーター育成塾修了式・入塾式が山形大学工学部で行われた模様を紹介する。

修了生には塾長(城戸淳二教授)から直接修了証書が授与された。また、新しく入塾する生徒からは代表者による宣誓が行われた。今後、入塾した生徒たちは、自らの興味関心に近い研究室に配属され、大学生や大学院生、留学生とともに研究を進めることになる。



イノベーター育成塾を終えて
三年 普通科 男子

私は昨年度の11月から約半年間にわたって、イノベーター育成塾の塾生として研究活動を行いました。テーマは「ToJ」センサーモジュールによる睡眠解析」というもので、山形大学工学部の先生方の御協力のもと、睡眠の満足度と睡眠中における温湿度、心拍数など様々な要素との相関関係について調べました。研究に際しては、データの取り方、解析の手法、考察など多くのことについて様々なアドバイスをいただくことができ、非常に高いレベルで活動を行うことができました。また、データ収集用のセンサを制御するプログラムをつくるときは、いかに省電力で動かすかといったことなど、普段はなかなか考えつかないような実践的な問題を考える機会が多く、思考力や技術力を向上させることができました。

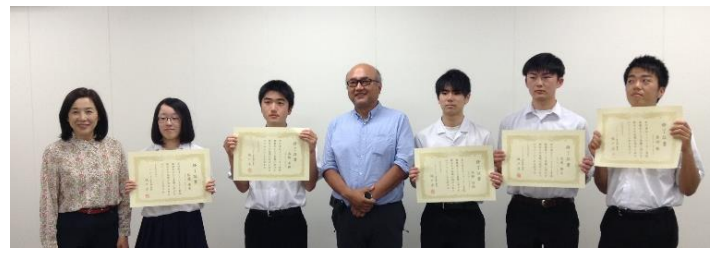
支援・協力してくださった先生方に感謝し、この貴重な経験を通じて身につけたものを存分に生かして、これからも好きな研究に打ち込んでいきたいです。

イノベーター育成塾を終えて
三年 普通科 男子

6月4日にイノベーター育成塾の修了式が行われました。私たちCSS(コア・スーパード・サイエンス)部三年生5名は約半年間にわたり、一人ひとりが希望した山形大学工学部の研究室に配属され、学生や院生の方々と共に研究に取り組んできました。私は「フレキシブル有機LEDの研究」を行わせていただきました。大学での実験は難易度が高く、思うような結果にならないことも多々ありましたが、それだけに成功したときの喜びは一層大きいものでした。

三月には活動の集大成として英語による成果発表が行われました。質疑応答も含め非常に緊張しましたが、通常の高校生では体験できないような経験を通して、大きな壁を乗り越える力がついたと感じています。この塾で培った力を糧にこの先を歩んでいきたいと思っています。

最後に、手厚いご指導を下さった研究室の方々やこのような機会を設けて下さった多くの方々に深く感謝いたします。



イノベーター育成塾入塾式
二年 普通科 女子

6月4日、私たちCSS(コア・スーパード・サイエンス)部員二年生13名は山形大学工学部にて行われたイノベーター育成塾入塾式に参加し、無事入塾することができました。入塾が決まり、私は楽しみにしていることがあります。それは高校ではできないような研究が山形大学でできることです。大学には高校にない設備がたくさんあります。そのため研究の幅が広がり、たくさんの方に挑戦できるからです。また、本校の先輩方のように上手な研究発表ができるようになることも楽しみです。先輩方の研究成果を、英語による発表は山形大学にて、日本語によるものは本校で拝見しました。英語での発表はあまり理解できませんでしたが、どちらもわかりやすいプレゼンテーションにまとめられていたのですね。先輩方のように、これからイノベーター育成塾の一回一回を大切に、様々なことを学んでいきたいです。

